Ⅳ　図画工作　１年次の成果と課題

１　成果

(1)　学びをつなげて活動するために造形的な「見方・考え方」を確かめる場の設定

表したいイメージに近付くように表現を工夫する力を育むためには，形や色などに着目した「見方・考え方」を働かせながら活動し，省察しながら試行錯誤を繰り返す必要がある。そのために，題材で働かせる「見方・考え方」を確かめる場を意図的に設定した。導入で参考作品を鑑賞したり，前時までの学びとつなげて互いの作品を見合ったりする場を取り入れることで「見方・考え方」について共有し，本時で活用する「学びのものさし」がはっきりと意識できるようにした。

これによって，前時までの学びから獲得した「学びのものさし」を使いながら活動する子どもの姿が見られた。「もっと楽しい感じにするためにこの色を塗ってみよう」「もっときれいにするためにはここを折って切ってみよう」などと，表し方を工夫しながら活動する子どもの姿につながった。題材で働かせる「見方・考え方」を基にした「学びのものさし」を使いながら試行錯誤する場を生み出すことで，既習の「学びのものさし」をさらに活用したり，自分なりの新たな気付きを生み，手応えを伴いながら新たな「学びのものさし」を獲得したりすることにもつながったと考える。

(2)　作品や活動について他者からフィードバックをもらう場面の設定

一人一人が目指すゴールに向かうためには，表したいイメージに近付いているかを省察する場が必要である。作品に対して他者からフィードバックをもらうことは，自分の表現に客観的な視点をもつだけでなく，新しい意味や価値を見いだすことにもつながる。

他者からのフィードバックをもらう場として，教師の声掛けだけでなく，友達と見合う場面を設定した。互いに作品を鑑賞する場面では，題材で使った「学びのものさし」を視点として示し，作品のよさや面白さを見付けることができるようにした。また，活動の途中でつくった作品を黒板に貼る場を設けたことで，自分の作品を貼りながら友達の作品を見たり，互いの作品について自然に対話をしたりする子どもたちの姿が見られた。

「学びのものさし」を視点として作品を見合ったり，互いの作品について活動しながら見合ったりする場を設けたことで，自分や友達の表し方のよさや面白さに気付くことができた。そこで得たフィードバックをさらに自分の作品に生かそうとする姿につながったと考える。

２　課題　一人一人の「学びのものさし」を共有化して，学びを広げていくための手立て

図画工作科の特質として，個々が見付けた「学びのものさし」は，その個人の表現に合ったものであることが多い。それを個人のものだけにするのではなく，互いに共有して，可視化したり言語化したりすることでみんなの学びを広げていく手立てを工夫する必要がある。さらには「学びのものさし」をその題材だけでなく，他の題材でも活用できるようにすることで，他の教科の学習や日常生活にもつながるように手立てを探っていきたい。